

COP26世界リーダーズ・サミット 岸田総理スピーチ

At the outset, let me start by commending my friend, Boris, for his leadership in hosting the COP 26.

(初めに、この会議を主催する、私の友人、ボリスのリーダーシップを称えます。)

I will be speaking in Japanese from now on. So may I ask you to put on your headphones.

(これから日本語でお話ししますので、ヘッドフォンを着用ください。)

気候変動という人類共通の課題に、
日本は、総力を挙げて取り組んでいく。
その決意を皆さんにお伝えするため、
このグラスゴウの地に、駆けつけてまいりました。

パリ協定の採択から6年。

当時、ローラン・ファビウス議長の下、決意を新たにした、
あの瞬間を、我々は忘れてはなりません。

「どうしても、これをフミオに渡したい」
そう言って、友人であるローランがくれた木槌を、
私は、気候変動問題に真摯に向き合う覚悟の証として、
今でも大切に持っています。

目標の達成に向け、この10年が勝負です。
高い野心をもって、共に全力を尽くしていこうではありませんか。

「2050年カーボンニュートラル」。
日本は、これを、新たに策定した長期戦略の下、実現していきます。
2030年度に、温室効果ガスを、
2013年度比で46%削減することを目指し、

さらに、50%の高みに向け挑戦を続けていくことをお約束します。

議長、

日本は、アジアを中心に、再エネを最大限導入しながら、
クリーンエネルギーへの移行を推進し、
脱炭素社会を創り上げます。

アジアにおける再エネ導入は、
太陽光が主体となることが多く、周波数の安定管理のため、
既存の火力発電をゼロエミッション化し、活用することも必要です。

日本は、

「アジア・エネルギー・トランジション・イニシアティブ」を通じ、
化石火力を、アンモニア、水素などのゼロエミ火力に転換するため、
1億ドル規模の先導的な事業を展開します。

先進国全体で、年間1000億ドルの資金目標の不足分を、
率先して補うべく、

日本は、6月に表明した、向こう5年間で、
官民合わせて600億ドル規模の支援に加え、
アジア開発銀行などと協力し、
アジアなどの脱炭素化支援のための
革新的な資金協力の枠組みの立ち上げなどに貢献し、
新たに5年間で、
最大100億ドルの追加支援を行う用意があることを表明します。

ボリスと協力し、

先進各国も、日本に続くよう呼びかけてまいります。

これらの支援により、

世界の経済成長のエンジンである
アジア全体のゼロエミッション化を
力強く推進してまいります。

日本は、世界の必需品である自動車のカーボンニュートラルの実現に向け、あらゆる技術の選択肢を追求してまいります。

2兆円のグリーンイノベーション基金を活用し、電気自動車普及の鍵を握る次世代電池・モーターや、水素、合成燃料の開発を進めます。イノベーションの成果をアジアに普及し、世界をリードしてまいります。

日本は、グローバル・メタン・プレッジにも参加します。

脱炭素への移行を進めていく中で、足下のエネルギー価格の上昇といった問題について、我々リーダーが対応を議論していくことも必要です。

さらに、日本は、防災など、気候変動に適応するための支援を倍増し、約148億ドルの支援を行います。先端技術を活用し、国際機関と連携しながら、世界の森林保全のため、約2.4億ドルの資金支援を行うことを表明します。

我々が気候変動問題に向き合う時、誰一人取り残されることがあってはなりません。日本は、対策に全力で取り組み、人類の未来に貢献していきます。

ありがとうございました。

(約1300字、約5分)